

大宮交通公園について

1. 大宮交通公園の概要

大宮交通公園は、自動車交通の急速な進展に伴い、本市の交通事故発生件数が過去最大となった昭和44年に、子どもが楽しみながら交通に関する知識や、正しい交通ルールを身につけることができる施設として、区画整理事業による公園予定地に整備された本市唯一の交通公園である。



大宮交通公園の概要
 区分：交通公園
 場所：京都市北区
 大宮西脇台町
 面積：約 2.1ha
 開園時間：9：00～16：30
 (時間外閉鎖)
 休園日：火曜日、年末年始
 その他：広域避難場所



図. 大宮交通公園の施設配置図（現状）

2. 大宮交通公園のあり方について

(1) 答申内容（京都市都市緑化審議会 平成29年8月25日）

答申

(再整備のコンセプト)

京都市唯一の交通公園として、楽しみながら交通に関する知識や正しい交通ルールを学べる公園の位置づけは継承する。

北消防署の移転を契機として、都市公園と消防の機能を一体化させ、防災機能を強化するとともに、安心・安全を守るオープンスペースを確保し、都市機能の向上を図る。

特徴のある地形を生かして回遊性を確保し、史的価値の高い御土居やくつろぎのある芝生広場、開かれた消防施設などを効果的につなぎ・活用することで、憩いと安らぎ、楽しさを感じられる空間づくりを目指す。

(各ゾーンにおける整備の方向性)

1 交通学習ゾーン

現在の交通問題に沿った、自転車の安全教育を中心とした、新たな交通学習施設として整備

2 すこやかゾーン

区民誇りの木を活かしたやすらぎのある、明るいオープンスペースとして整備

3 御土居ゾーン

歴史的な価値を有する御土居を活かした広場として整備

4 防災機能強化ゾーン

北消防署と一体化し広域避難場所としての防災機能強化、環境・景観への配慮

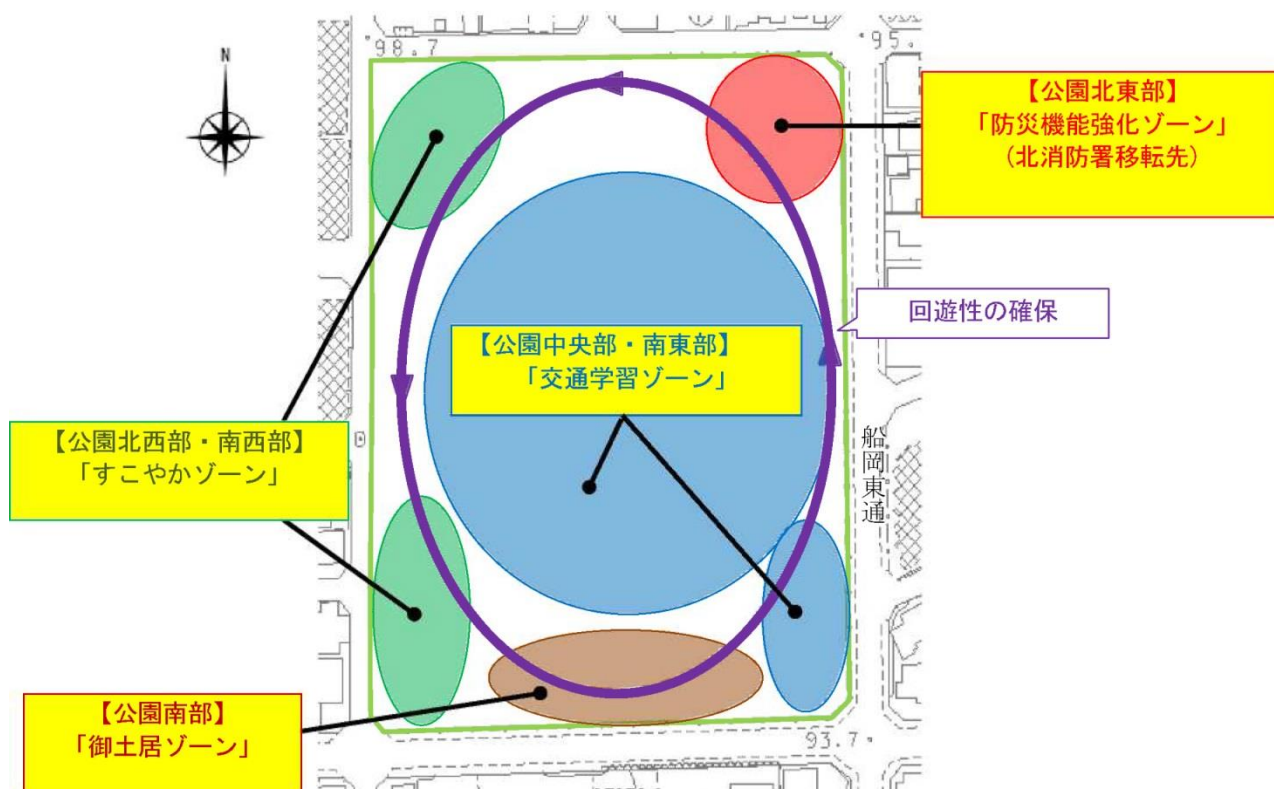


図. 大宮交通公園のゾーニングイメージ

(2) 再整備コンセプト・方向性

京都市唯一の交通公園として、楽しみながら交通に関する知識や正しい交通ルールを学べる公園の位置づけは継承する。

北消防署の移転を契機として、都市公園と消防の機能を一体化させ、防災機能を強化するとともに、安心・安全を守るオープンスペースを確保し、都市機能の向上を図る。

特徴のある地形を生かして回遊性を確保し、史跡的価値の高い御土居やくつろぎのある芝生広場、開かれた消防施設などを効果的につなぎ・活用することで、憩いと安らぎ、楽しさを感じられる空間づくりを目指す。

公園中央部・南東部

時代に即した交通学習（自転車マナー等）施設の整備や、遊びながら学べる施設を望まれている意見が大多数を占め、ガソリンエンジンのゴーカートよりも、現在の交通問題に沿った新たな交通学習施設が期待されている。

自転車の交通ルールや自転車の運転に潜んでいる危険を学べる施設と併せて、環境に配慮した乗り物等を提供できる施設を目指す。

(整備の方向性)

○交通学習ゾーン：現在の交通問題に沿った、自転車の安全教育を中心とした、新たな交通学習施設として整備

公園北西部・南西部

みどりを保全して欲しい、楽しめる、ゆっくりできるゾーンなどの御意見が多く、憩いの空間を望まれている。

公園はうまく活用することで、健康増進にも寄与することから、公園の地形を利用して、芝生広場や緑地帯などを歩く・座る・寝転がるなど、子どもから大人まで、自由にくつろげるオープンスペースの確保を目指す。

(整備の方向性)

○すこやかゾーン：区民誇りの木を活かしたやすらぎのある、明るいオープンスペースとして整備

公園南部

「御土居の歴史的価値を学べる」や「御土居に入れる」などの御意見が多いことを踏まえ、学びながら活用できる施設を目指す。

(整備の方向性)

○「御土居ゾーン」：歴史的な価値を有する御土居を活かした広場として整備

公園北東部

北消防署の移転に期待している、消防署の移転は安心できる、防災機能向上など、防災に対する機能強化に期待をしている意見が大多数を占める結果となり、安心・安全への期待の大きさが伺えた。

一方では、緑の減少を危惧する声もあることも踏まえ、敷地内の緑化、雨水の一時貯留機能を有する施設の設置や屋上への緑化を検討し、公園と消防署の一体化による防災機能の強化を行うことで、都市公園のストック効果を総合的に高めて都市機能の向上を図り、地域に配慮した施設整備を目指す。

(整備の方向性)

○防災機能強化ゾーン：北消防署と一体化し広域避難場所としての防災機能強化、環境・景観への配慮